

決算の概要

平成25年度の一般会計決算について、その概要を説明いたします。

一般会計の予算規模は、

当 初 予 算	63億6,000万円
国庫補助の決定等に伴う補正	9億3,734万4千円
最 終 予 算	72億9,734万4千円

となり、平成24年度に比べて2.9%の増額予算となっています。

さらに、平成24年度からの繰越明許事業費2億3,676万2千円を加えますと75億3,410万6千円となり、平成24年度に比べて、4.9%の増額予算となります。

この予算に対する決算額は、

歳 入	73億9,586万円
歳 出	71億6,207万2千円
歳 入 歳 出 差 引 額	2億3,378万8千円

となります。

なお、平成25年度決算においては、平成26年度へ繰越明許費繰越額の一般財源等2,296万5千円があり、次の第1表で示すように歳入歳出差引額からこの翌年度へ繰越すべき財源を差し引いた額が実質収支額であります。その結果、2億1,082万3千円の黒字決算となり、3～5%が望ましいとされている実質収支比率(臨時財政対策債発行可能額を含めた標準財政規模に対する割合)は5.0%となりました。

また、単年度収支(平成25年度実質収支と平成24年度実質収支の比較)を見ると、568万2千円の増額となりました。

平成25年度中、歳入面では、積極的に財源の確保に努める一方、歳出面では、行財政改革に取り組むとともに、集中管理等による一般行政経常経費を節約するなど効率的な予算の執行に努めました。

この結果、実質収支が黒字となり収支の均衡を図ることができました。

しかしながら、一般財源である町税が、今日における社会経済の状況から大きな伸びが図れず、地方財政を取り巻く環境は、厳しい状況であります。

このような状況の中、義務的経費等は年々増加の傾向にあることから、「門川町行財政改革構想」に盛り込んだ実施計画に基づき、行財政改革を強力に推進し、財政の健全化に努めていく必要があります。

第1表 最近5カ年の決算収支状況

(単位:千円・%)

区 分		平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度	平成21年度
歳 入 決 算 額	A	7,395,860	6,992,157	7,236,045	7,515,164	7,136,353
歳 出 決 算 額	B	7,162,072	6,771,392	7,014,650	7,282,060	6,917,333
形 式 収 支 (A-B)	C	233,788	220,765	221,395	233,104	219,020
翌年度へ繰越すべき財源	D	22,965	15,624	21,124	46,975	35,800
実 質 収 支 (C-D)	E	210,823	205,141	200,271	186,129	183,220
単年度収支(現年度E-前年度E)	F	5,682	4,870	14,142	2,909	▲ 25,745
財 政 調 整 基 金 積 立 金	G	261,103	311,317	411,275	363,016	401,999
繰 上 償 還 金	H	0	0	0	0	0
財 政 調 整 基 金 取 崩 額	I	220,000	200,000	200,000	186,000	270,000
実質単年度収支額(F+G+H-I)	J	46,785	116,187	225,417	179,925	106,254
標 準 財 政 規 模	K	3,952,709	3,880,778	3,903,319	3,848,889	3,781,778
臨時財政対策債発行可能額	L	280,049	289,751	303,528	402,319	306,227
実質収支比率(E/K+L)	M	5.0	4.9	4.8	4.4	4.5